

8月の道内景況 情報連絡員レポート

主要DI引き続き低下 厳しい状況であるとの声が聞かれている



概況

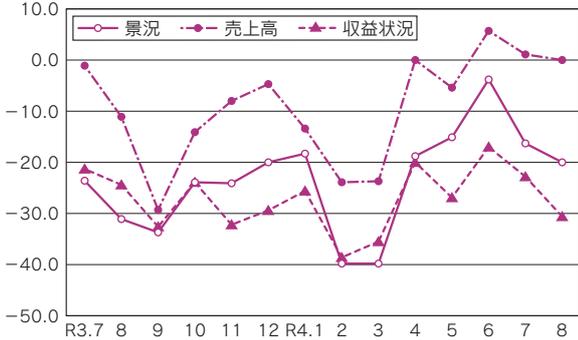
全業種の主要DIは、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てにおいて前月より低下した。

情報連絡員からの報告によると、製造業では、「景況」、「売上高」、「収益状況」、「雇用人員」で改善しているが、他の項目で低下している。

非製造業では、「販売価格」を除くすべての項目で低下した。

今回の報告においては、幅広い業種から原材料や電気料金の値上がり等の影響が収益を圧迫し、厳しい状況であるとの声が聞かれている。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比
業界の景況	☔ △16.3	☔ △20.0	△3.7 ↘	☔ △18.2	☔ △16.1	2.1 ↗	☔ △15.3	☔ △22.2	△7.0 ↘
売上高	☁ 1.1	☁ 0.0	△1.1 ↘	☔ △12.1	☁ 9.7	21.8 ↗	☁ 8.5	☁ △5.6	△14.0 ↘
収益状況	☔ △22.8	☔ △30.6	△7.8 ↘	☔ △21.2	☔ △16.1	5.1 ↗	☔ △23.7	☔ △38.9	△15.2 ↘
販売価格	☔ 27.2	☔ 29.4	2.2 ↗	☔ 27.3	☔ 25.8	△1.5 ↘	☔ 27.1	☔ 31.5	4.4 ↗
取引条件	☁ △9.8	☔ △20.0	△10.2 ↘	☁ 0.0	☁ △6.5	△6.5 ↘	☔ △15.3	☔ △27.8	△12.5 ↘
資金繰り	☁ △4.3	☔ △9.4	△5.1 ↘	☁ 0.0	☁ △3.2	△3.2 ↘	☁ △6.8	☔ △13.0	△6.2 ↘
雇用人員	☔ △15.2	☔ △14.1	1.1 ↗	☔ △15.2	☁ △6.5	8.7 ↗	☔ △15.3	☔ △18.5	△3.3 ↘

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

食料品

- 例年8月に定置網で行われるマス漁は、不漁だった昨年よりもさらに悪く、令和2年度の1/20程度の水揚げとなっている。要因は海水温と言われているが、9月から始まる鮭も同じ状況から期待薄の状態。組合員の工場については、ホタテ加工を中心に稼働しており、今年度も量・質ともに良好で安定稼働している。(網走)
- 円安と原材料の価格高騰が限界に近づいている。日銀の対応に対する不満の声が多くある。(小樽)
- 春の小麦の値上げに対し、組合員各社は、それぞれ値上げできたところと、まだできず苦労しているところがあり、組合員全体の前年比収益は減少している。(全道)
- 味噌出荷量(道内); 単月(令和4年7月)前年対比 96.5%
 醤油出荷量(道内); 単月(令和4年7月)前年対比 90.4%
 ・令和4年1月~7月の道内・累計出荷量; 味噌 前年対比 99.3%
 ; 醤油 前年対比 95.7%
 ・令和4年1月~6月の全国・累計出荷量; 味噌 前年対比 100.0%
 ; 醤油 前年対比 100.6%
 ・令和4年7月の道内単月出荷量は、味噌・醤油ともに悪い。
 ・令和4年1月~7月の道内の累計は味噌・醤油ともに前年割れ。
 ・令和4年1月~6月の累計で、道内の醤油の出荷量は、全国平均よりも悪い状況が続いている。
 ・外国産大豆価格の高騰及びコンテナ船の入港遅れ等で、原料大豆の手当てが難しくなっている。燃料高もあり、大変厳しい状況が続いている。(全道)

木材

- 原木は相変わらず数量不足で、単価は高止まり。それに加えて、重機や乾燥機の燃料及び電気料金の値上がりで製造原価は異常な上がり方だが、製材単価の見直しを行って頂いていることで、収益状況は何とか不変で推移している。(十勝)
- 8月期もこれまでと同様にトドマツ原木は、カラマツ原木不足により代替えとして使用することから需要が増加している状況。また、トドマツ原木の移出は本州製材工場の需要が下がったこと、トドマツ製材工場は原木確保に苦慮している。市況については、地域差があるが保合~強含みで推移。
 ・8月期のカラマツ原木は、入荷量に比べて消費量が増加していることから、慢性的な原木不足は未だ解消される見込みがない状況。4.00m材が高値で取引され、多く出材されているが、3.65m材の出材が少ない状況。市況については、強含みで推移。
 ・製材市況は、建築材、産業用資材共に、価格は横ばいの状況にある。ここに来て、商社がオファーした北米材、欧州材の入荷が大量にあり、港の倉庫がいっぱいとなっている。その結果、今後、道産材の動向を注視していくこととなる。港の倉庫もこれから農産物が優先されることから、木材は倉庫から野積みになる話もあり、これから商社が在庫処分をするようなことがあれば、原木価格の上昇分を道産材は製品価格転嫁ができなくなるのが心配である。市況については、エゾ・トドマツは、保合~強保合が見込まれる。カラマツは、強保合。
 ・紙原料は、原木価格が上昇していることからチップ買取価格の上乗せを希望する事業者が多くある。
 ・木質バイオマス原料については、順調に集荷されている。
 ・広葉樹原木については、供給期でないため需要が減少。
 ・製材工場は、原木確保に苦慮していることから、原木の移出対策を望む事業者が多くある。(全道)

窯業・土石製品

- 函館地域では、新幹線札幌延伸工事での需要はあるが、その他の砂利需要工事がほとんどなく、前年と変化はない。
 ・新幹線工事は八雲と長万部に砂を供給しているが、工事の進捗状況が思わしくなく、供給が計画どおり進んでいない。
 ・砂利の販売価格は上昇しているが、調達コストも上がっており、取引条件的には良くないことから収益に繋がっていない。(全道)
- 8月の生コン出荷量はおよそ315万m³。(前年同月比100.9%)
 ・地域別には、前年同月を上回った分は29分會中、15分會で前年(増加は16分會)を下回った。前年同月と比較して、増加したのは札幌、北海道、釧路など。一方、減少したのは千歳地区、上川北部地区、富良野地区などであった。(全道)
- 住宅着工件数が相変わらず低迷している。一方、公立学校の体育館や大きな私立病院等、比較的大きな物件の見積り依頼が開始している。
 ・10月からガラスがまた値上げするとのこと、現在見積り中の物件の価格据置を問屋さんをお願いしている。値上げ後の新価格をどうやって浸透させるか難しい状況が続いている。値上げ前の買ひだめをしても3か月分程度しか出来ないの、どれだけ利益が出せるか心配している。
 ・就労者数が減少傾向にあり、どのように確保していくか難題を抱えている。(全道)

一般機器

- あらゆるもののコスト高騰と材料・部品不足により、いろいろな業種で発注が停滞気味である。(札幌)
- 資材価格の値上がりが続いている。コロナの影響もあり運送関係が人手不足のため、納期が余計にかかる。(全道)

その他

- 北海道は夏の繁忙期に入りコロナ以前には届かないものの需要は回復傾向である。一方、懸念材料として原燃料・電力や副資材価格の値上に加え、製紙メーカーの値上が出そろい、今後の動向を注視しなければならなくなった。また、農作物では8月の豪雨被害も出ており、今後の収穫量が不安である。
 ・非常事態宣言がないものの飲食店は不安定な経営を余儀なくされており、従業員の確保も躊躇しながら何とかやっているが、我々も各種団体もこの生活様式に慣れ、会社自体がほとんどなくなり、結果として飲食店の閉店がさらに増えてきたように感じる。このことは、廃棄するゴミも必要のひとつだった時代から新しい消費の時代に生まれ変わる兆しなのかもしれない。
 ・10月1日から製紙メーカーは15円/Kgの値上げで決着し、貼合メーカーは15円/Kgと変動費3円。平米値上で決着するが、我々BOXメーカーはこれを受け、紙質構成別・箱の才数別に一点ずつ個別計算をして客先と交渉をしなければならず、値上に対する労力の違いを感じる時がある。(全道)
- 業界では近年の造船不況で人員の縮小、加工外注の削減、さらには新型コロナウイルスの感染拡大で中国の都市封鎖(ロックダウン)に伴う資機材の生産停止などが追い打ちとなり、最近の新造船受注拡大への対応が労働力不足と外注業者不足で計画通りに操業ができず、造船各社は建造工程に遅れが生じている。
 ・修繕船工事(巡視船、一般商船、漁船)の受注が順調で先が明るい。(室蘭)
- 国による経済的支援など再検討が必要ない状況下であると思われる。燃料高騰、円安等で経済力が低迷している状況の中、世の中で値上げが当たり前になっている現状が果たして今後に与える影響がいか程か、一末の不安を覚える。(旭川)

非製造業

卸売業

- コロナ感染が第7波の最中であるが、行動制限等の施策がないため、商業施設の来客数や企業の営業活動は前年を大きく上回り、季節商品の動きも良く業績は改善傾向にある。しかし、今後の感染状況の推移には懸念を抱いている。
 - ・円安や品不足、物流費の高騰で原価が上昇、価格改定により販売単価は上昇傾向にある。売上はコロナ以前には回復していないが、収益は横ばい、またはやや改善している。
 - ・組合会議室の利用はコロナの感染者が増加するもキャンセルは少なく、高い稼働率を維持している。(札幌)
- 十勝におけるコロナ感染者は、北海道内の他地域と比較すると札幌市以外では断トツに多い結果となった。感染予防対策を講じながらイベントや多くの往来の結果かと思われる。特に秋の収穫時期となり、十勝で開催される食に関するイベントでは多くの人が訪れていた。(帯広)
- 令和4年8月期の当組合買付高は仲卸、荷受合計1,593,161千円で、先月の7月期実績額1,774,779千円より181,618千円ほど減少した。減少分は盆休による卸売市場の休業によるところが原因であるが、7月期にお中元用贈答果物が高値になってしまい、相対的に8月期の買付け額が目減りし、扱ひ量の減少とそれに伴った価格の高騰は顕著であり、今後の収穫期に与える影響が心配である。また、9月8日時点で1ドル143円を記録し、国内需要が極端に減少しているわけではないが、青果生鮮品が輸出に回され、内需を賄うだけの物量が確保できるか不安が残る。引き続き、生鮮動向には注視していくが、状況は厳しいと言わざるを得ない。コロナ感染症に関して第8波の懸念もあり、不安である。(札幌)
- 価格改定が本格化しており、その対応に追われている状況。値上げ分の売上は増加しているが、数量は伸びていない。観光客がコロナ前の7割程の水準に戻ってきているため、土産菓子の回復が期待されている。(全道)
- 住宅着工数減少により、木材の需要が減少している状況。(全道)

小売業

- 売上高対前年比100.98%でほぼ横ばい。大口先の売上も上昇傾向にあり、前年実績をキープした。(札幌)
- 商工会議所が市内大型店とスーパーの7月の売上をまとめた。大型店は対前年比7.5%増、5か月連続の増で、来年1月に閉店を公表した地元百貨店の売上が全体を押し上げた。内訳は身の回りが58.2%増、外出時に使うものの売上が好調。衣料品については夏のクリアランスセールがスタートしたことで、19.7%増と分析している。その上で地元百貨店の閉店報道以降、来店客、売上ともに伸びている。行動抑制がなくなり、大型店での買い物の機運が出てきている。スーパーは1.8%増、客単価は微増となり、購入数が増えたのではなく値上げ幅が影響している。(帯広)
- 今月の函館朝市は、3年ぶりにコロナの行動制限のない中でお盆期間を迎え、今年は道内のみならず、道外の観光客や帰省客で賑わった。ピーク時は駐車場が満車となり渋滞も見られ、食堂では常時行列が目立った。一方で、物販店は、やはり消費マインドが冷え込んでいくこともあり、思うように売り上げが伸びなかった。又、食材の高騰により、仕入れに大きな影響が出ており、利益を圧迫している。
 - ・15日に函館八幡宮の例祭として、4年ぶりとなる神輿渡御で中神輿と小神輿の2基が函館朝市へ巡回した。函館朝市ひろば前にて野立て参拝し、関係者一同、商売繁盛を祈願した。
 - ・物価の高騰や異常気象による天災など、昨今は暗い話題ばかりで、世間の消費マインドも一向に上がってこない情勢が続いている。ここ函館朝市では、2年前のGoToトラベル「地域共通クーポン」の影響が非常に大きく、額面規模で1億円以上の経済効果があったので、それに変わる新たな経済施策を一日も早く実施いただき、消費マインドの回復を願いたいところである。(函館)
- 前年比較
 - 物販見込 99.6%
 - 金融 94.9%
 - ・コロナの感染者数が高止まりの状態が続いているが、2年間中止されていた各種イベントは縮小しながらも再開され、外出する人が増えている。観光客も増えており、飲食店や観光施設も賑わいを取り戻しつつある。業種別では旅行関連と飲食店が前年比200%を超え、服飾も前年を上回ったが、一方、食料品や家電が大幅に減少し、集ごもり需要が減少したのと思われる。(旭川)
- 組合全体のカード利用回数の前年比は89.7%とイベント実施の割には悪かった。食品スーパー関連の前年比は93%と前月に比べても落ちこんだ。ホームセンターの前年比も83.3%と落ち込み、一般店の前年比は83.5%と通年の8月と比べても悪かった。
 - ・当組合のカードの利用回数の前年比は96.4%
 - ・当組合のカードの利用回数の前年比は89.6%
 - ・当組合のカードの客単価の前年比は93%
 - ・値上げラッシュにより、買ひ物の回数が減っており、客単価も下がっている。(声別)
- 8月の取扱高は、前年比105%の状況。8月は天候にも恵まれ、商店街に人が増えアフターコロナへ向かっているように思えるが、景気に関しては物価上昇により厳しい状況である。国内旅行客は増加しており、レンタカー需要が大きく増加している。今後の景気回復に期待をしたい。(苫小牧)
- 行動制限のない夏休み・お盆期間のため、観光客が多く来場し売上が伸びたように見えたが、電気料金の高騰が利益を圧迫している。
 - ・暑さが続き商品の入荷が少ないため、売り時に商品がないことも収益を伸ばせない原因の一つとなっている。(小樽)
- 原材料等多くの商品が値上がりする中、当会加盟店も販売価格を上げながら対応している。一方で、消費者を考へるすきずき、価格転嫁できない事業所もあり、値上げせずに販売を続けている事業所もある。最低賃金の上昇や原材料コストの上昇、新型コロナウイルス感染拡大による来店客数の減少、コロナ融資の返済開始など様々なファクターが経営者を悩ませているため、当会としても販促事業だけでなく、現場の生の声を聴き、経営相談を受ける等しな情報収集していきたい。(高田)
- 8月は全体的に前年マイナス、唯一燃料販売店だけがプラスといった状況だった。今年は行動制限のないお盆休暇であったことから、旅行等に消費が向いたものと思われる。釧路市内も多くの観光客や帰省客が見受けられたが、衣料、宝飾、化粧品等を扱う店舗のほとんどが当組合員店においては、消費の対象にはならなかったものと推測している。
 - ・8月のカード取扱高について、旅行関連が前年323%、飲食業も前年127%と、観光や帰省等により両業種は好調に推移。また、他都市からの入込によるカード取扱も前年116%、当会会員他都市でのカード利用も前年128%と、コロナによる行動制限がなかったことから、観光に関連した業種については

- 前年プラスで終わっているが、その分一般物販店の取扱いは大きくマイナスとなっている。釧路市においては3年ぶりに各種催事等が開催されはじめ、いくらか市中に活気が戻ってきているが、景気回復にはまだまだ時間を要する。(釧路)
- 電気代、灯油代及び重油代が値上がりし、収益悪化。設備においても、部品及び製品の価格上昇により整備できない。(美瑛)
- 未だに収束が見えないコロナ感染、物価上昇、肥料高騰、異常気象等々、農業経営継続には不安な状況が続いている。そのような中でもAIの利用で、コストの削減、生産作業の見える化等、メーカーと生産者が一体となり、商品への価格転嫁の理解を求めているところである。(全道)
- 商品の値上げ分を販売価格に上乗せできなく、店の利益が減ってきている。ガソリン・電気等の価格を下げるような方法をとらないと経営が厳しくなってくる。また、今年もサンマや鮭の入荷が少ない状況である。(札幌)
- 8月は、夏休みやお盆休み等で観光客のお客様が多かった。旅行会社の団体ツアーや、関東関西方面からの修学旅行のお客様も先月に引き続き来店しており、感染者が急増したにもかかわらず、共存しながらの旅行に振って来ていると思われる。市民のお客様は、毎月開催の和商の日は来店され、賑わいを見せているが、物価高の影響を受けている状況である。
 - ・コロナ対策としては、来店客にはマスクの着用、出入り口にはアルコール消毒を設置し、館内放送にてお願いをし、定期的に出入り口を開放し、換気対策を実施している。店内の、お客様が利用したテーブルには、飛沫対策のアクリル板を設置し、テーブルやイスはこまめにアルコール消毒をしている。
- 中東原油価格をみると、1バレル当たり90ドル半ばから100ドルの間で増減を繰り返すなど、前月を下回る水準で推移した。
 - ・北海道におけるSS店頭小売価格については、政府の燃料油価格激変緩和対策事業の効果から、1リットル平均166円程度と、引き続き高値ながら前月を若干下回った。一方、8月の全国ベースでのガソリン販売量をみると、ここ2〜3か月は前年を上回る動きをみせていたが、当月は月間を通して前年を下回った。
 - ・今後の動向については、原油価格の高騰が続けば、SS店頭価格も引き続き高値で推移することになり、ガソリン等の販売への影響が懸念される。(全道)
- 上昇し続けていた仕入価格が少しずつではあるが、下降してきている。このまま下降していくことを期待したい。(稚内)
- 8月1日のWTI原油価格は93.89ドルで先月から見て14.54ドルの反落でスタートした。これは世界景気の悪化懸念の高まり、特に中国の製造関連指標の悪化で大きく値を下げた。その後も世界的な景気減速から31日ではWTI価格89.55ドルとなっている。
 - ・組合員の状況として、8月の原油価格は若干の反落状態で国の激変緩和対策事業の元売りに対する補助もあり、SSでの販売価格は若干の値下げとなった。(旭川)
- 新車の納期遅れが続いており、中古車への注目が高まっている。展示されている中古車の走行距離が少ないものは特に高値で取引されている。当組合で主催した中古車合同展示会には良い車を探している方々にとっては悩ましいことだ。多少高い金額の車検でも継続し、その間に新車の納車を待つパターンも多くなる。(札幌)
- コロナ、ウクライナ侵攻の影響で部品や本体の入荷遅れが続いている。特に高級自転車の納期遅れの影響が大きい。需要があっても供給が追いつかず、頭を抱えている。(全道)

商店街

- 地元百貨店の7月売上高は、3億8,712万円(前年同月比25.9%増)。閉店が明らかになって以降、来店客数が増、閉店セールが始まる。
 - ・8月共通乗車券の利用は、前年同月比114.3%、買物共通バス券は、前年同月比27.8%。(帯広)

サービス業

- 燃料用重油が高止まりのままで、営業用の備品及び光熱費の値上がりも営業に大きな打撃となっている。入浴料金の値上げは決定したものの、コロナ感染症も治まらず、どの程度が営業利益に繋がるのか不安なところである。(全道)
- 前年比較での宿泊入込数は道内、道外ともに増加。通常期(令和元年)と比較しては約7割程度の回復。コロナ感染による規制がないため、道外客入込に期待をしていたが、全国的な感染者増加のためか、全国旅行支援が延期となったためか、8月のキャンセルは少なくない。原油価格高騰および食材を含める仕入れ原価の値上がりが続いているため、売上高増加=収益好転とはならない。(十勝)

建設業

- 令和4年8月の業況として、公共工事においては年度内完成の工事として発注される物件はこれから減ってくる時期である。また民間工事においては、物件の動きやそれに伴う営業活動も動いてきているが、資機材の価格の上昇や調達、施工する人材の確保など様々な問題が要因となり、契約金額が決まるまでの時間が多くかかる傾向になってきている。また電力系の工事においても確実に仕事量は減ってきている傾向にある。高所作業における対策器具であるフルハーネス型や胴ベルト型の墜落制止用器具を作業状況に合わせて使用していくなど、施工面でも法令に則した対応が企業に求められており、今後も色々な課題に対して解決をしていかなければならない状況は続いている。(全道)
- 組合員の業況
 - 工事関係は後半の折り返しとなり、市発注の工事のほかに個人住宅や公共建築工事の設備も受注しているため、今年は各社とも近年になく忙しい状況である。
 - ・問題点
 - 市発注の工事が何本も工期が重なって、業者は調整に苦労している。個人住宅の水道設備修繕では1か月以上遅れるケースが出始めている。市には発注時期を集中するのではなく平準化を考慮してほしい。
 - ・地域の実情
 - 農家の稲作については、好天に恵まれ生育は今のところ順調である。コロナ感染者急増により一部地域ではイベントの中止や内容変更も出始めている。(名寄)

運輸業

- 売上高は、前年同月比76.9%増加
 - ・乗務員数は、前年同月比7.0%減少
 - ・7月分チケット取扱高は、前年同月比69.8%増加(旭川)
- 本州からのJR便貨物がトラック便に切替えられたため、物流の量が減り、収益状況としては減少となっている。
- 農産物については昨年から増えているものの平年よりも作柄は悪く、荷動きは良くない。
 - ・建築関連品についても資材価格の上昇が原因なのか、荷動きが悪い。(石狩)